Shodoho --- Newsletter of Shodokan

第15号(道場開き特別号) 平成 17年 07月 15日発行

- <発行所> 関西合気道競技連盟広報部
- <発行責任者> 中村芳勝(広報部長)
- <編集> 昭道報編集係

します。

皆様お忙しい中、ご来賓の

ご出席を頂き、お近くの方、また遠

ていただいて、共に喜び合い喜びを

してこんなに大勢の皆様に集まっ

本日は昭道館の改築が相成りま

昭道館長

富木昌子

分かち合えますこと大変感謝いた



平成17(2005)年5月29日(日)

二〇〇五年五月二十九日(日)昭道館道場開きが執り行われました。午後 -時からは昭道館道場で記念演武会、その後場所を変えて祝賀会が開かれま した。遠方は東北や四国から、昭道館にゆかりのある方々が集まり、百七十 名を超える方々が昭道館の増築を祝いました。

げます。

いただきましたことを御礼申し上 方からも今日の道場開きにおいで

ます内山理事長と初代館長であり

昭道館はこちらにいらっしゃ

気道の研究に余念がなかった富木 がありまして生まれたものです。合 ます富木謙治との運命的な出会い

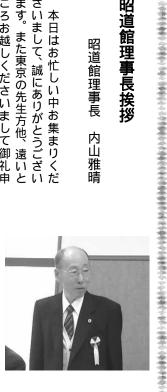
館理事長挨拶

昭道館理事長

小さなお子様から青年、学生の皆様 習には大変役立つことと思います。 でございますが、皆様方の合気道練 た。大切に使わせていただきます。 し上げます。ありがとうございまし をお借りいたしまして厚く御礼申 お祝いを頂戴いたしましてこの席 し上げます。皆様方からたくさんの ころお越しくださいまして御礼申 ます。また東京の先生方他、 さいまして、誠にありがとうござい 約四十五畳ほど大きくなったの 本日はお忙しい中お集まりくだ また女性の方々それから壮年老 、 遠 い と

内山雅晴

康な体と心の鍛錬に励んでいただいます。なお一層の心身の鍛錬、健年の方々、それぞれ練習方法がござ り張り切りすぎてケガをしないよ きますようお願い申し上げます。あ う充分に気を配ってやっていただ うにまた相手にケガをさせないよ きますようお願いいたします。あま っがとうございました。



年に渡り、昭道館の発展に尽くして

最後になりますけれども、三十余

こられました成山先生と日本合気

続けたいと願っております。 らに人を大切に出来る道場であり

礼申し上げまして、また今後もより 道協会の諸先生方に対して厚く御

い申し上げて私のご挨拶とさせ 層ご指導ご鞭撻頂きますようお けるように、合気道を大切にし、さができてよかったと感じていただ

に出会えてよかった、合気道の稽古

会員の方お一人お一人に昭道



ございま きます。 ていた

あ だ

前の事が私の記憶に蘇ってくるも は申し上げられませんけれども生 富木は内山理事長を心から信頼申 るということが出来ると思います。 阿吽の呼吸から生まれた道場であ 亡くなった後も変わることなく、合 のがあります。内山理事長は富木が し上げておりました。それは一口で てくださいました内山理事長との そしてそれを丸ごと受け入れ

いると思います。 いう希少価値これも大変高まって っております。合気道の専門道場と 容が充実しなくてはならないと思 られて今日に至っております。こう はじめ大勢の指導者に恵まれまし ます。昭道館は大庭先生、小林先生 に心から感謝申し上げたいと思いに支えてこられましたシマエ夫人 して入れ物が大きくなり、さらに内 て、そして多くの会員の皆様に支え て内山理事長と、そしてまた陰に陽 だきました。この場をお借りしまし 道館をこれまでに発展させていた 成し、日本合気道協会の中央道場昭 道場を広げ、そして多くの人材を育 を頂きまして今日までこのように 気道のために並々ならぬお力

昭道館長挨拶

来賓ご祝辞

JAA理事長

内田滋

晴らしいことだと思います。 畳という大変立派な大きな道場 張をされ、本日このように一二六 昭道館の地に本格的な研究の場 富木先生が早稲田大学からこの きましてありがとうございます。 本日は道場開きにお招きいただ に生まれ変わりました。本当に素 であったとおうかがいしており を移されました。当時は二十四畳 ます。それから今日まで三回の拡

ります小泉純一郎総理大臣名の 認証が下りました。従って今後は 般四月二十一日、内閣府の長であ した法人化の問題であります。先 合気道協会が積年の夢でありま ただきたいことがあります。日本 これから皆様にご報告させてい

特定非営利活動法人日本合気道 た。 お

いう機能をど導者の養成と非今後とも指 うい 気 道 であります。 核をなす道 館 き う意 協 は ま 会の中 しても 是 場中



願

会の会長であります富木昌子は が育っております。日本合気道協 当館の館長も兼ねております。 気道の指導員として多くの人材 けではなく、国内海外を問わず合 指導され、今日合気道の同好者だ 先生の下で成山師範が頴として た昭道館であります。 富木(謙治) いました。非常に長い歴史を持っ ざいます。本当にありがとうござ 長に御礼を申し上げる次第でご せて頂きました。改めて内山理事 昭道館の地番を事務所に登記さ てまた東京の事務所の他に、この 協会という名称になります。そし

謝いたしております。

皆様の姿が次々と思い浮かびま ります。今こうして改めて過去の ら三十五年という節目の年であ 私にとっても昭道館に合気道の せたかった。彼らは常に私の昭道 宏君の事が思い出されてなりま 立ってしまった指導員の安部降 亡き植木琢也君の姿や、ちょうど は共に喜びを分かち合った、今は 足繁く通い、前回の道場改築時に く広島から重い機材を背負って ₹ 9 思い出を振り返りますと、多くの 専従指導者として参りましてか 昨年の今頃、若くして遠くに旅 の思い出とともにあります。 ん。この新しい道場を二人に見 さて私事で恐縮ですが、本年は 特に昭道館の創設当初に、遠

御礼申し上げます。

にありがとうございます。

。心より

ざわざご臨席を賜りまして本当 道館改築記念演武会のために、わ

皆様、本日はご多忙のところ昭

昭道館

師範

成山哲郎

究できる専用道場を」という富木

昭道館は「合気道を専門的に研

謙治師範の熱意に応えて一九六

事長が設立され、本年をもって三 七年七月に内山雅晴現昭道館理

過去に富木先生から頂いた書簡 合った三十五年でした。 私にとっては長くもあり、

生のご厚意の賜物であり、 立以後変わることのない内山先 わることが出来ました。これも設 という堂々たる道場に生まれ変 の三度目の改築により一二六畳 道館も二度の増築を経て、この度 す。設立当初は二十四畳だった昭 十八年の歴史を重ねるに至りま

> 部設置、すべて今からです。」 家、指導者の養成、道場建設、 できませんでした。今後は専門 か、十年選手さえも育てることが ないために、指導者の養成はおろ 成されたものを普及したのでは まだ続くと思います。しかし、完 かけてきました。これからもまだ ついては、これまで時間と労力を た。「合気道競技の内容の研究に の中に、こんな一文を見つけまし

今日の良き日を迎えるにあた 昭道館が、こうした富木先生

受付

受付

ıί

今後とも昭道館は幅広く「合気道 歩みを共にすることが出来た喜 富木先生と内山理事長のお志し と思っております。 役割を担う中央道場でありた 者育成を行う「専用研究機関」 に合気道の継続的な研究や指導 の普及」に力を注ぎながら、同時 びを改めて噛みしめております。 の結晶である昭道館と、今日まで ということを実感するとともに、 理想がこめられた道場なのだ の

めてここに誓い、私の挨拶とさせ ために全力で邁進することを改 合気道を世界中に発信し続ける に心からの感謝と、先生の理想の 館に導いてくださった富木先生 うございました。 て頂きます。本日は誠にありがと 最後になりましたが、私を昭道

> 道場開き訪れた方 名です。

道場開きが行われた日は、 とてもよい天気でし いつもは道着で勇ましい姿を見せております する女性らしい

真で見る道場開きの様子



道場開き式開始 Speeches

招待演武の様子 nvited guest

模範試合

祝賀会 Reception party

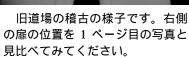
祝賀会

の1階に道場があります



演武(小学生の部) Enbu (elementary students)







演武(中学生の部) Junior high school students 師範演武 Nariyama Shihan's







演武(大学生女子の部)

Women univ. students

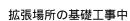
拡張場所を掘り下げています。



演武(大学生男子の部)

Men univ. students







演武(本部指導員)

Teachers of the Honbu dojo 祝賀会 Reception party







旧外壁が取り払われたあとはこ のように仕切られて工事が進めら れました。



Shodokan Musashino



ここが拡張された部分です。

台 文美子 は ま子 が 忍(編集長)

に皆様からのご意見などお 直接、昭道報係まで。

分がわかるような・・に足をヤケドします。 もっともっとよい紙面にす 待る

分すり足でシュッと動くな拡張された部分の畳は、こと思います。 稽古ができたことは幸運だったるその出来事を、間近に見ながら館の歴史のひとつとして刻まれ道場が改築されるという昭道

いうことで、内容も道今回は昭道館道場開

内容も道場開きだ

特別

The dojo opening of Shodokan Honbu

On May 29th, 2005 a ceremony was held to commemorate the expansion of Shodokan Honbu dojo. Honbu dojo, which was previously 81 tatami mats in size, has added 45 more mats. Construction started in January and finished in early April. The renovation was made possible by donations from over 400 Shodokan members and associates, and great help of Uchiyama sensei.

With over 170 guests and participants present at the dojo, the ceremony began with speeches from Masako Tomiki, the director of affairs for Shodokan Honbu.

After the speeches, various groups performed enbu demonstrations. This was followed by the final demonstration of the day performed by Nariyama Shihan. After the ceremony, a reception party was held in Tennoji. It was attended by over 200 people and everyone enjoyed drinking, eating and talking with each other in celebration of the newly expanded dojo.

Speech by Masaharu Uchiyama

-The head director of the board of Shodokan dojo Thank you for taking time out of your busy schedule to be here today. A special thank you goes out to the teachers who came all the way from Tokyo. And I would like to thank everyone for coming here to celebrate the opening of the dojo; it is an honor to be here today. Use the new dojo thoughtfully and with a sense of purpose. The dojo has added nearly 45 tatami mats for your training, and I'm sure that this will be of great use to you. For everyone, starting from young children and kids, to students, women and the elderly alike, there is a type of practice for all. I encourage you to take this opportunity to forge your mind and body through the practice of Aikido. I ask that you train hard, but not so hard as to do harm to yourself, plus be equally careful not to harm the person you are training with. Thank you very much.

An extract of speech by Tetsuro Nariyama

-Shihan of the Shodokan dojo

Kenji Tomiki Shihan's idea for Shodokan Aikido was to have a dojo that was made for the sole purpose of studying only Shodokan Aikido. In July of 1967, with the help of Uchiyama sensei, the Head director of Shodokan dojo, Shodokan dojo was built. Now the dojo has 38 years of history behind it. The very first dojo had only 24 tatami mats but it would be renovated two more times. By the time of its third renovation, the dojo had increased in size by 126 tatami mats. This is all due to the unchanging benefit of Uchiyama sensei. I am very thankful. I am obliged to say that this has become the 35th year as a teacher here at Shodokan. When I stop and look back over the years, many people come to mind. In particular, when Shodokan first started out, one person would come all the way from Hiroshima with his camera, that was very heavy machine parts in those days, to take part in training. He trained very hard and was able to share his enthusiasm with those around him. That was Ueki san who has since passed away. Another person who comes to mind is Abe san who passed away at about this time two years ago during his travels. I wish



Shodoho --- Newsletter of Shodokan --

An extract of speech by Masako Tomiki

-The Director of Affairs for Shodokan dojo

As Kenji Tomiki was busy studying Aikido, Uchiyama sensei fully accepted all of Tomiki's thoughts and ideas concerning Aikido. The two of them hit it off perfectly and because of this the creation of the first dojo was able to take place. Tomiki trusted Uchiyama sensei completely. I cannot easily explain this trust, but I know through my memories from when he was still alive that it existed. After Tomiki passed away, Uchiyama sensei did not change a thing. Instead, for the benefit of Aikido, he continued in Tomiki's effort, with all of his heart, and the results can be seen in the dojo that exists here today. Also, by bringing in and cultivating many quality people, this dojo has gone so far as to be able to become the head dojo for the Japan Aikido Association. For this, I would like to thank not only Uchiyama sensei, but also his supportive wife, Shimae, for all that they have done. This day was also made possible because of Oba sensei, Kobayashi sensei, and all of the other many teachers that have graced this dojo as well as all of the dojo members. Through everyone's participation, not only has the dojo become physically bigger place, but also the contents of the Aikido itself have grown. I believe that there is great value in this dojo because it is only one of a few dojos that practice only Aikido.

To each member of the dojo, I feel that you are glad to have the chance to meet and practice here. I hope that you continue to do so with the dojo's ideal of treating people importantly. Lastly, for over thirty years, Nariyama sensei and the teachers from the Japan Aikido Association have done everything possible to ensure the development of Shodokan Aikido. My deepest thanks go out to you and I hope that you are able to go to an even higher level of teaching and continue to strongly encourage others in their pursuit of Aikido.

I could show them this dojo. They will always be a part of my Shodokan memories.

For me, it has been both a long and short 35 years here. The other day I came across a letter from Tomoki sensei that had this to say. "The study of competitive Aikido has taken a lot of time and effort up to this point. I feel that it will take much more time into the future as well. When completed, it will not be popular and because I haven't been able to properly train teachers, even those who have been active players for over ten years. So from now, in order to teach a perfect Aikido, we need to start a dojo that focuses only on Aikido so that the development of teachers can take place." Lastly, I would to give a heartfelt thank you to Tomiki sensei for guiding me to Shodokan Aikido. I swear to continue to promote Tomiki sensei's Aikido ideals to the world with all of my ability.